



東 俣 野 9月号

東俣野小学校 学校だより 令和5年9月1日

“ 心の安心を ”

学校長 幸保 陽子

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。昇降口に立っていると、子どもたちが、楽しかった思い出や一生懸命に取り組んだ自由研究のことなどを口々に話してくれます。その表情からは、皆それぞれに充実した夏休みを過ごした様子が伝わってきました。しかし同時に、楽しかった夏休みが明けるこの時期、学校が再開することに不安を抱いたり、ストレスを抱えたりしている子どももいると思います。

先日、新聞に「夏休みが終わるこの時期には、(省略)学校に自分の居場所がなく、一人で悩みを抱え、しんどい思いをしている子供たちがいる」と掲載されていました。そこには、学校に行きたいけれど行くことができない子どもの思いや叫びが綴られていました。

では、学校をはじめ、周囲はどのようなことができるのでしょうか。夏休み明けのこの時期、学校は子どもの心の安心を優先させて教育活動を行っていくことが大切だと考えます。子どもの不安を受け止め、居場所をつくり、つらい時には子どもがSOSを出すことができる環境を整えていくことが求められていると思います。

新聞には、周囲の対応の仕方について「TALKの原則」が掲載されていました。①T (Tell 心配していることを言葉で伝える) ②A (Ask 思いを率直に尋ねる) ③L (Listen 気持ちを傾聴する) ④K (Keep safe 安全を確保する)。これは、教育委員会主催の研修でも取り上げられている内容です。子ども一人ひとりに寄り添った支援や言葉かけを大切にして子どもたちにかかわっていきたいと思います。

また、子どもたちの学校への心構えも大切です。友達や同級生と積極的に交流して、コミュニケーションを図り、「一人じゃない」と自分の居場所を認識することが必要かもしれません。そして、自分が好きなことや向上したいところを考え、目標をもつこともモチベーションを高める一歩となるでしょう。焦らずに自分のペースで取り組むことを心がけ、わからないことや困っていることは友達や先生に相談し、SOSを出してほしいと思います。

学校のスタートはルーティーンの再構築でもあります。夏休み中に生活リズムが乱れている場合には、早めに正常な生活リズムを取り戻していききたいものです。睡眠時間の確保や栄養バランスのとれた食事を摂ることを意識して、心身のバランスを整えることができるとよいでしょう。

夏休み明けは、時に不安や緊張を感じるかもしれませんが、心の安心を優先させることで、学校生活をポジティブにスタートさせていきたいと思っています。そのためにも、学校と家庭、地域と連携を図り、子ども一人ひとりを温かく見守っていききたいです。